

2024年4月16日

2024年 会社説明会

In Step with the Future
NICHIRIN

(証券コード 5184)

In Step with the Future
NICHIRIN
110th
ANNIVERSARY
SINCE 1914

1. 当社の概要
2. 2023年12月期(令和5年12月期) 決算
3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について
5. トピックス

1. 当社の概要

1. 当社の概要 会社概要

株式会社ニチリン

In Step with the Future
NICHIRIN

110th
ANNIVERSARY
SINCE 1914



社名	株式会社ニチリン
創立	1914年(大正3年)5月
資本金	21億5,800万円(2023年12月31日現在)
従業員数	<単独>347名 <連結>2,408名
本社所在地	神戸市中央区江戸町98番地1
事業所	姫路工場(本社機能), 東京支社, 浜松営業所
事業内容	自動車用ゴムホース, 住宅関連ホース
上場市場	東京証券取引所スタンダード市場
証券コード	5184
単元株式数	100株
ホームページ	https://www.nichirin.co.jp/

(2023年12月31日現在)

1. 当社の概要 ニチリングroup拠点(国内・海外)



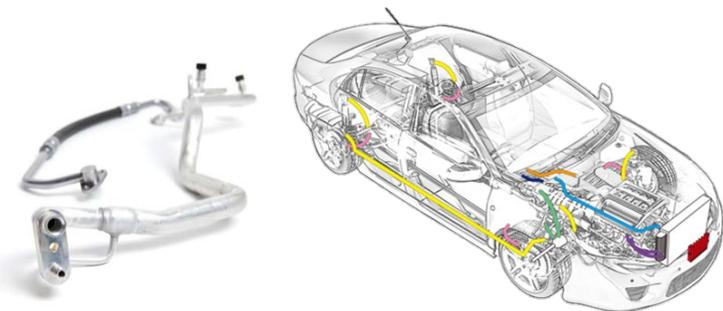
1. 当社の概要 事業内容

自動車用(4輪・2輪)・住宅関連ホース・同部品等の製造販売

自動車用

搭載システムの高機能化にも柔軟に対応する製品づくり

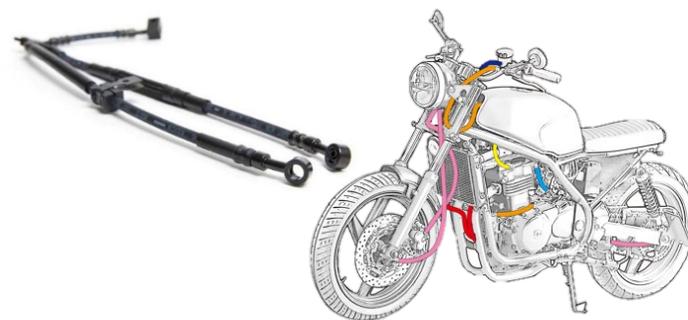
- ・制動系ホース
ブレーキホース
- ・熱マネジメントシステム用配管
エアコンホース・エアコン配管
内部熱交換機(IHX*)
- ・その他油圧空圧系ホース
パワーステアリングホース 等



2 輪 車 用

ブレーキホースは日本国内で100%に近いシェアを確保

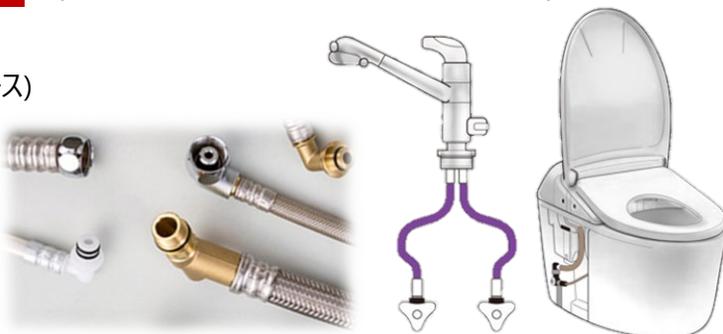
- ・制動系ホース
ブレーキホース(自転車用を含む)
- ・その他油圧空圧系ホース
フューエルホース 等



住宅関連用ホース

樹脂・ゴムを用いた設計度の高いフレキシブルな配管
(トイレ・バス・キッチンなどの水栓/給水用ホース)

- ・給水給湯用配管
混合水栓用ホース(水道用ホース)
トイレ用ホース 等



産業用機械 検査・監視録画機器

- ・レーザーマーカ関連
- ・検査・監視録画機器



2. 2023年12月期(令和5年12月期) 決算

2. 2023年12月期(令和5年12月期) 決算

【経営成績等の概況】

国内自動車販売は、部品不足による生産調整があったものの、輸出が好調に推移
 中国における日本車販売減少の影響があったものの、北米・アジアは比較的好調に推移
 円安の影響により、増収増配幅が拡大

(百万円)	2023年度実績	2023年度		前年比
		計画(11月発表)	実績	
売上高	64,172	70,000	70,631	+10.1%
営業利益 (率)	7,678 (12.0%)	8,800 (12.6%)	9,620 (13.6%)	+25.3%
経常利益 (率)	8,452 (13.2%)	10,000 (14.3%)	10,548 (14.9%)	+24.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益 (率)	4,578 (7.1%)	5,500 (7.9%)	5,915 (8.4%)	+29.2%

- 為替影響(前年比)
 売上高: +26.3億円
 営業利益: +8.7億円
- 営業利益の為替感応度
 1円: 0.96億円/年

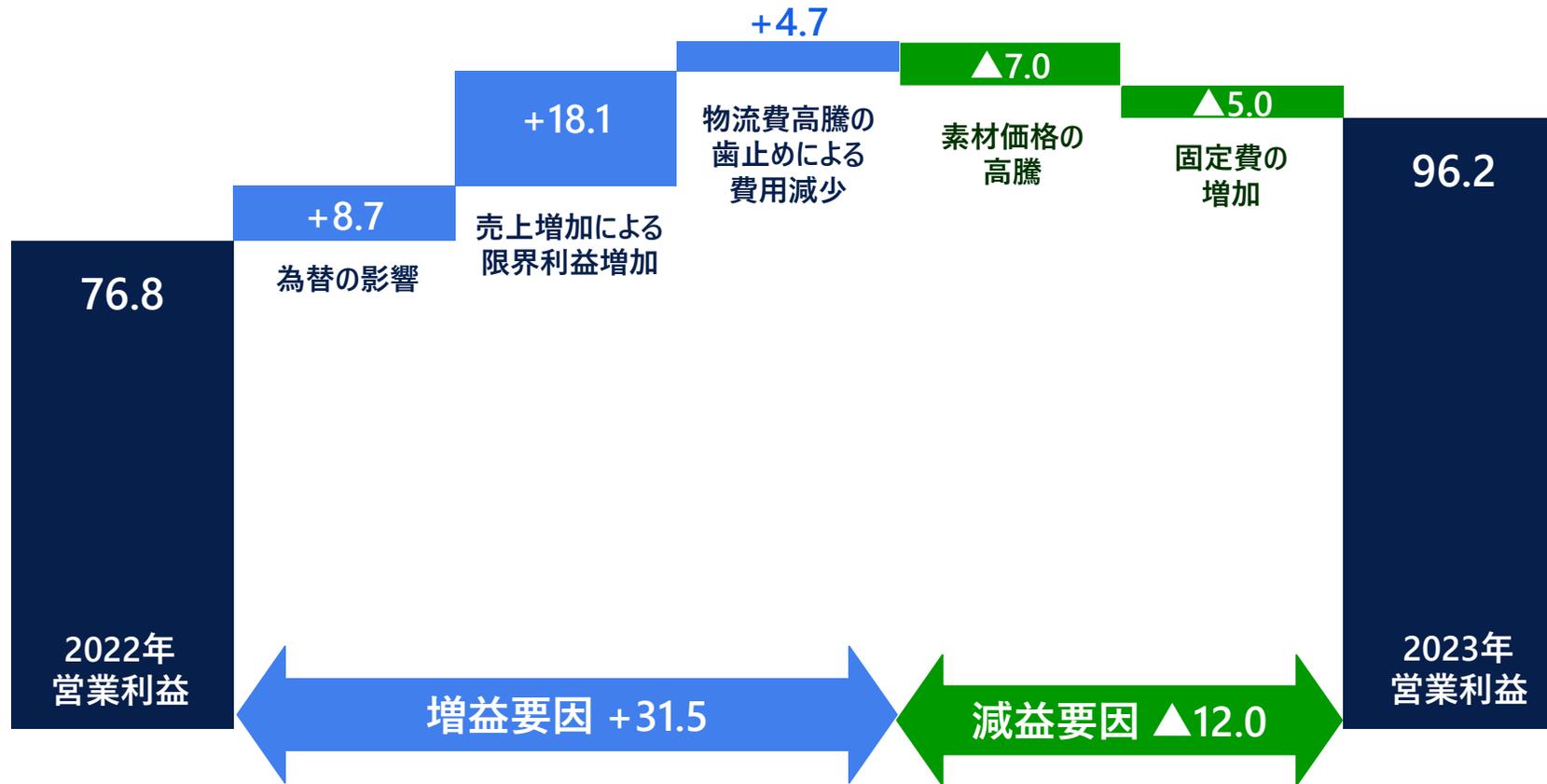
※ 1円あたりの為替レート

USD(米ドル)	131.64円	140円	140.67円
EUR(ユーロ)	138.15円	150円	152.11円
CNY(中国元)	19.50円	20円	19.82円

2. 2023年12月期(令和5年12月期) 決算

営業利益増減要因

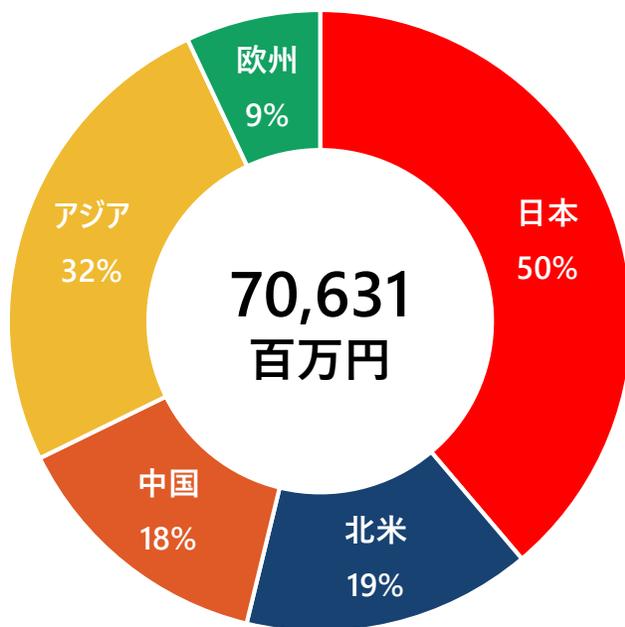
(単位:億円)



2. 2023年12月期(令和5年12月期) 決算

【地域別セグメント】

2023年度 売上高

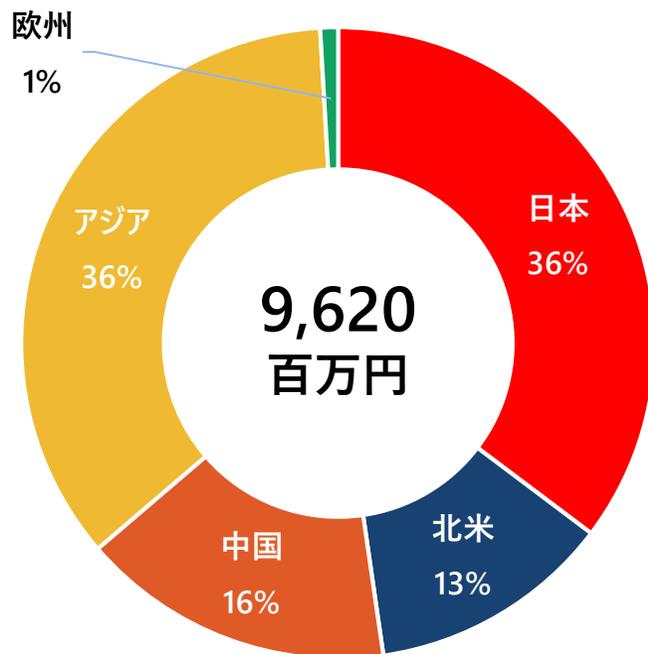


		2022年度実績 (百万円)	2023年度	
			実績	前年比
全社	売上高	64,172	70,631	+10.1%
	営業利益	7,678	9,620	+25.3%
日本	売上高	32,487	35,159	+8.2%
	営業利益	2,708	3,452	+27.5%
北米	売上高	10,673	13,551	+27.0%
	営業利益	326	1,216	+273.0%
中国	売上高	13,401	12,636	-5.7%
	営業利益	1,840	1,564	-15.0%
アジア	売上高	19,952	22,892	+14.7%
	営業利益	3,169	3,461	+9.2%
欧州	売上高	4,720	6,318	+33.9%
	営業利益	-290	89	-

2. 2023年12月期(令和5年12月期) 決算

【地域別セグメント】

2023年度 営業利益



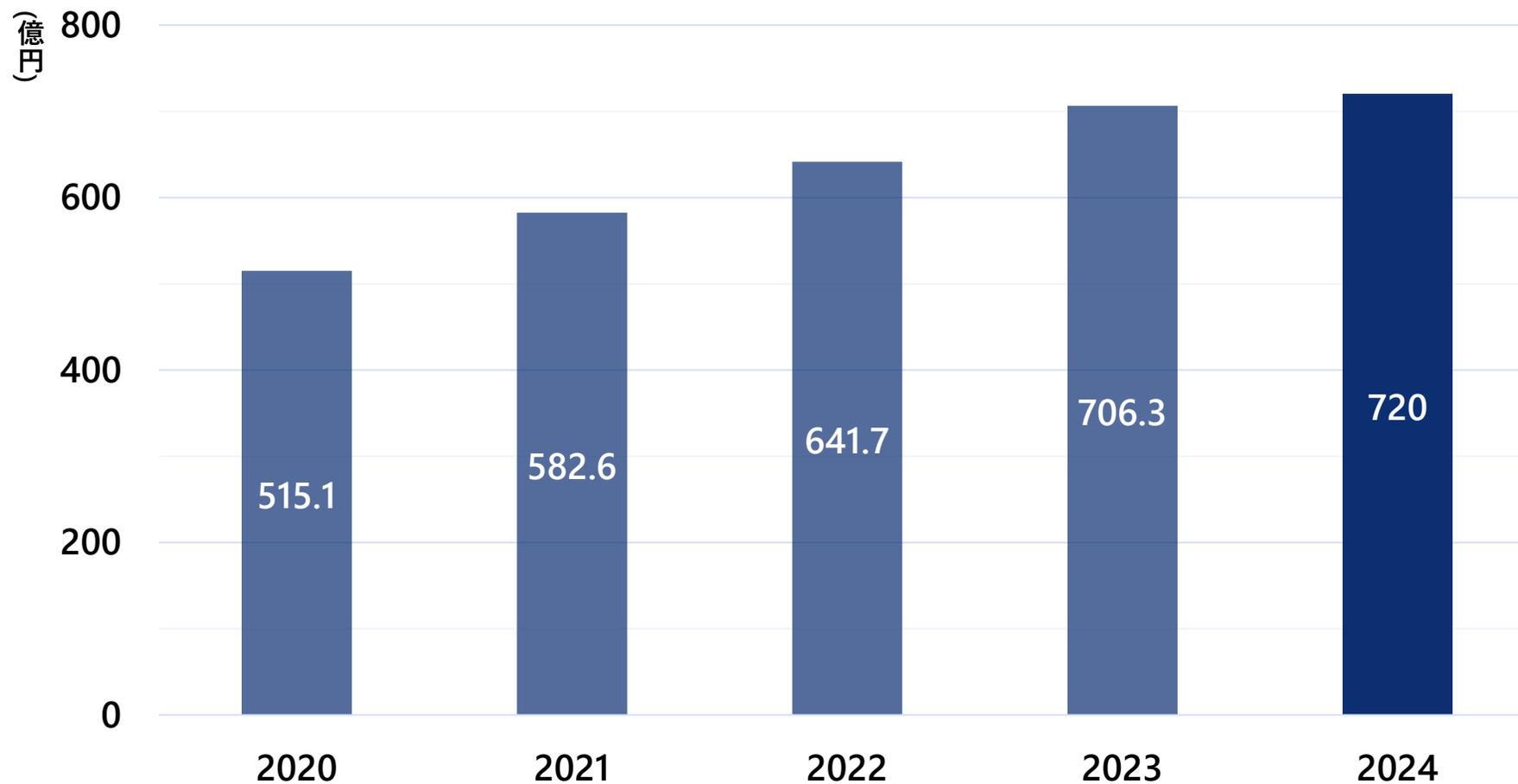
		2022年度実績 (百万円)	2023年度	
			実績	前年比
全社	売上高	64,172	70,631	+10.1%
	営業利益	7,678	9,620	+25.3%
日本	売上高	32,487	35,159	+8.2%
	営業利益	2,708	3,452	+27.5%
北米	売上高	10,673	13,551	+27.0%
	営業利益	326	1,216	+273.0%
中国	売上高	13,401	12,636	-5.7%
	営業利益	1,840	1,564	-15.0%
アジア	売上高	19,952	22,892	+14.7%
	営業利益	3,169	3,461	+9.2%
欧州	売上高	4,720	6,318	+33.9%
	営業利益	-290	89	-

3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想

3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想

売上高

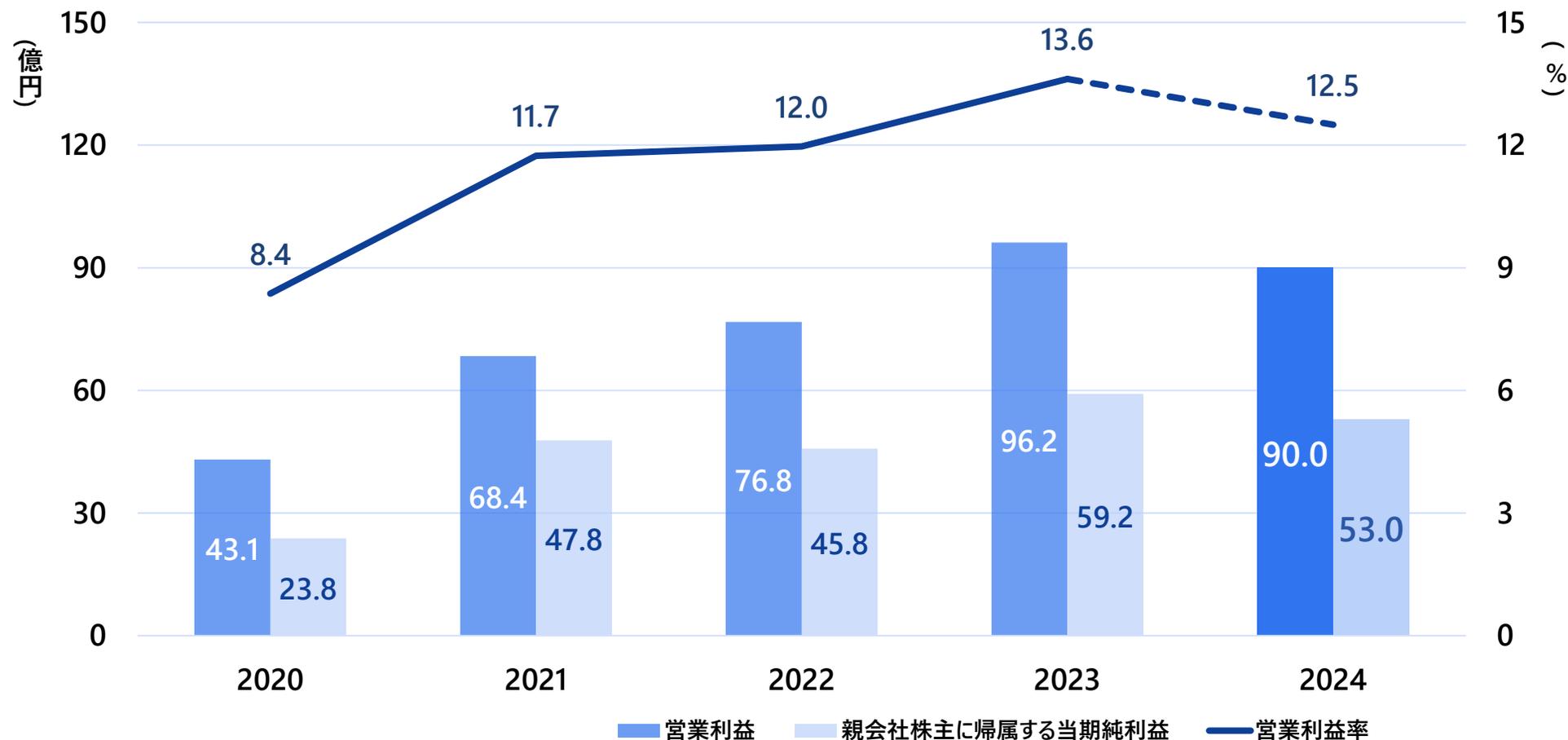
業績予想の前提となる為替レート
 1 USD = 140円
 1 EUR = 150円



3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想

営業利益・当期純利益

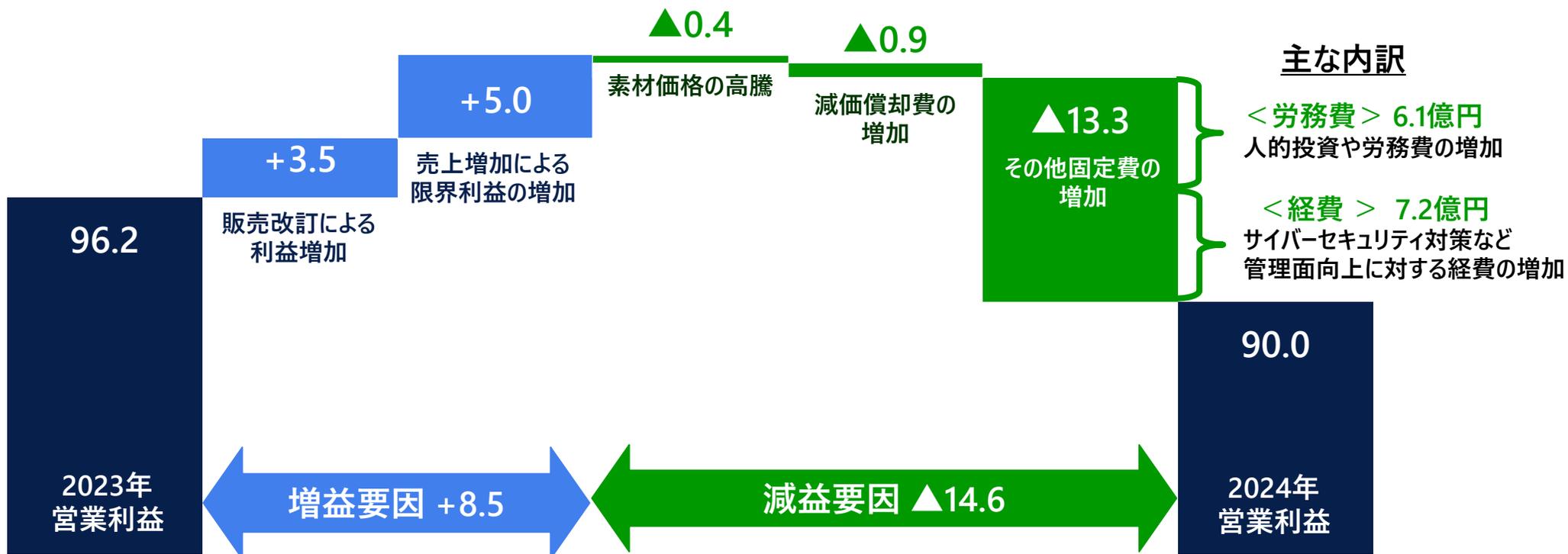
業績予想の前提となる為替レート
 1 USD = 140円
 1 EUR = 150円



3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想

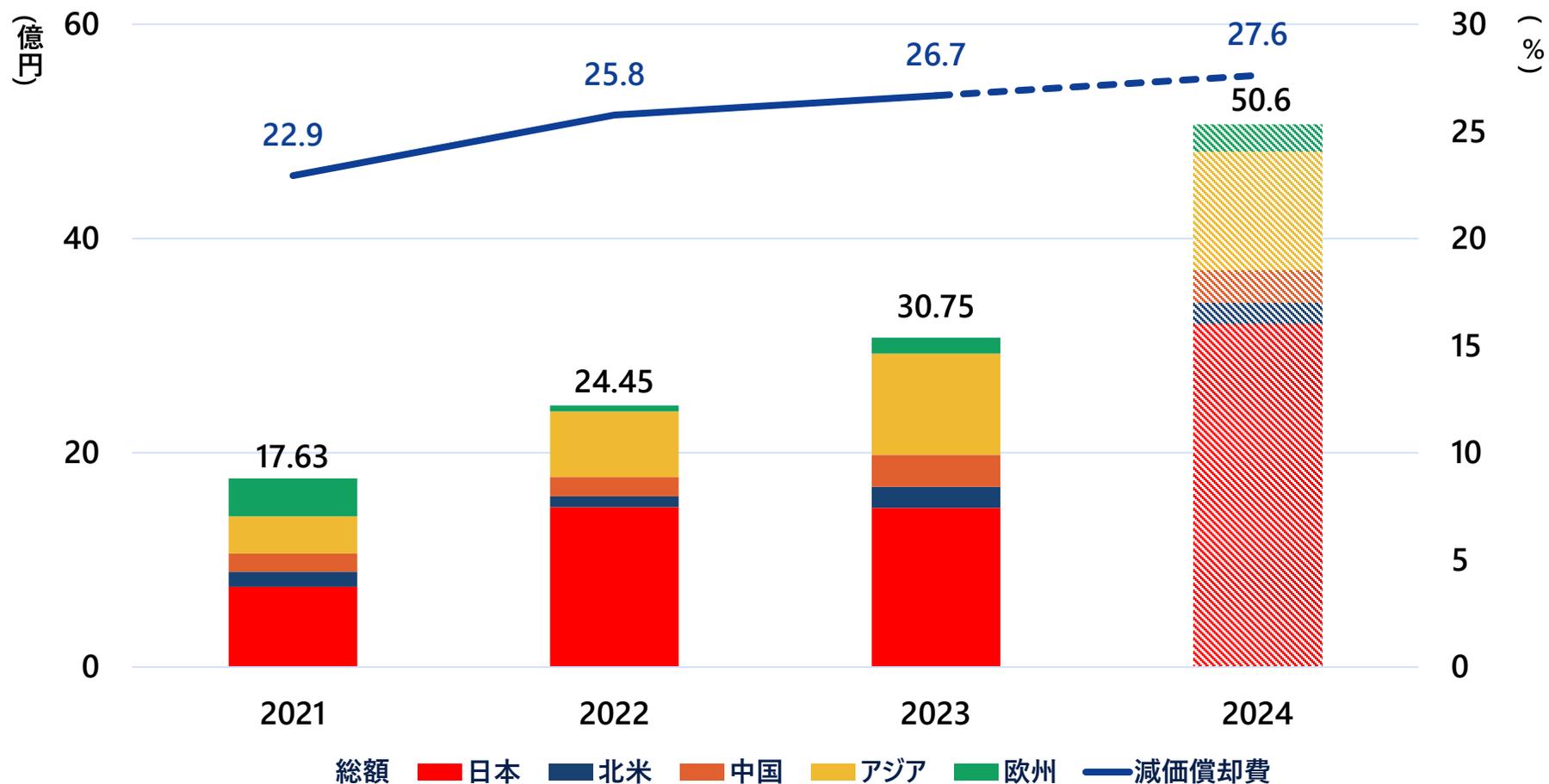
営業利益増減要因

(単位:億円)



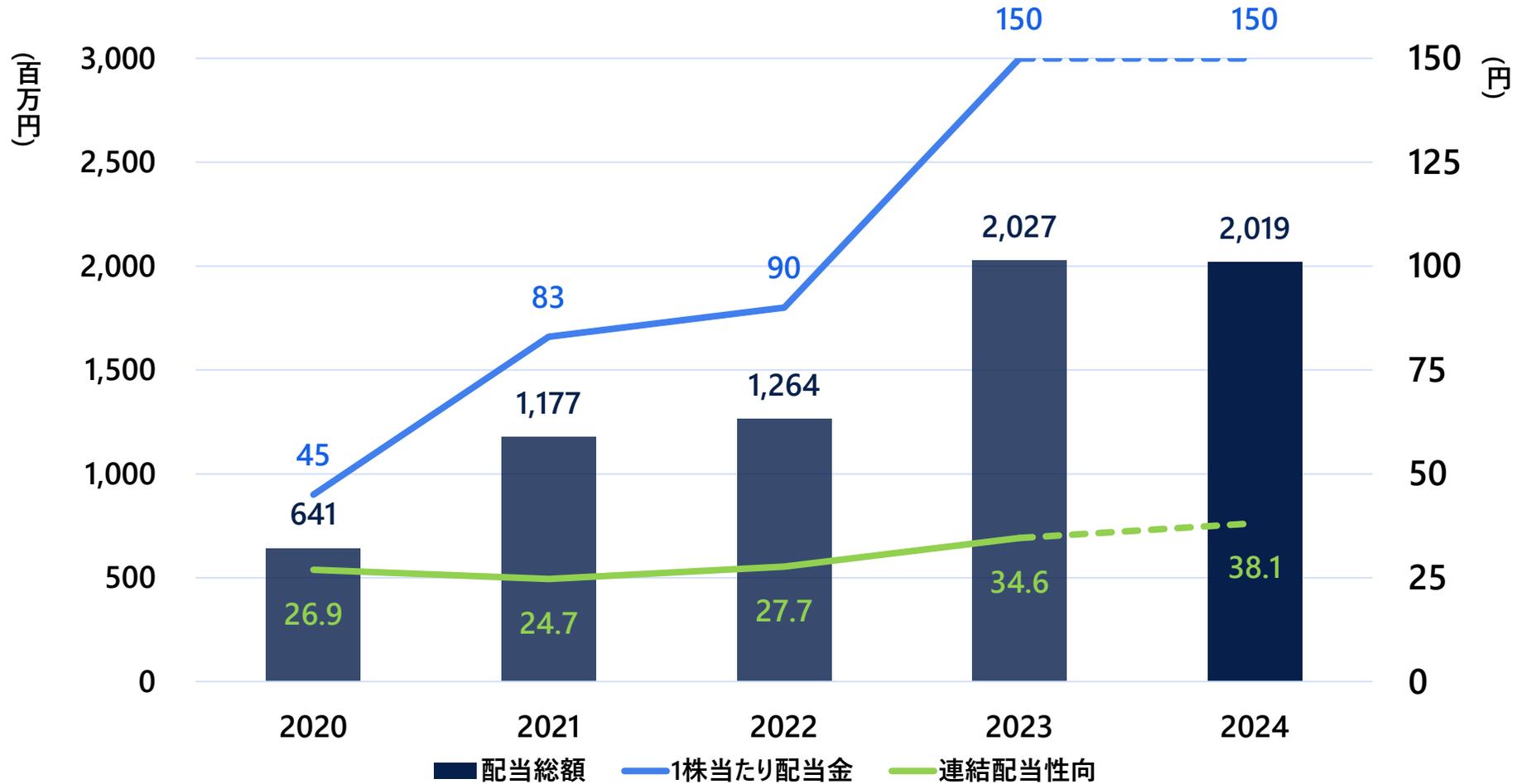
3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想

設備投資計画



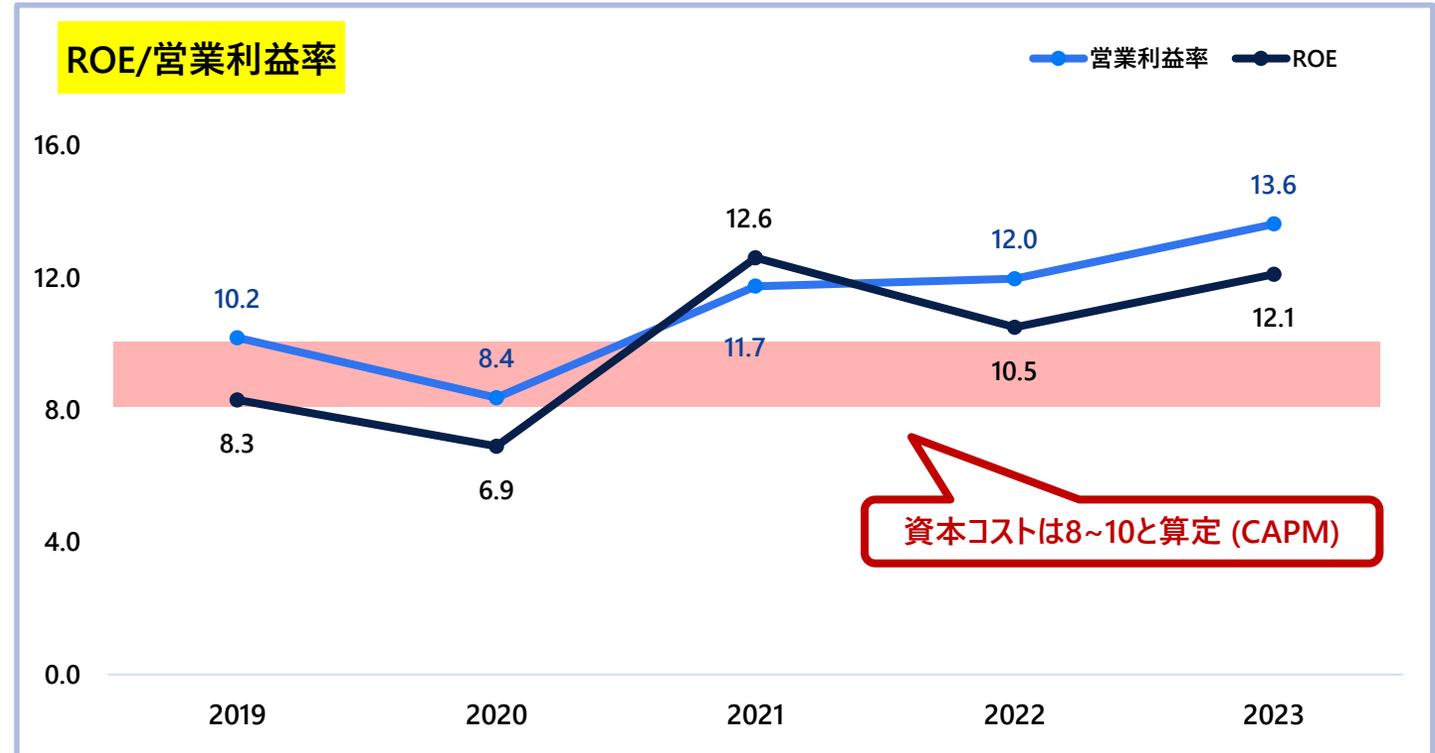
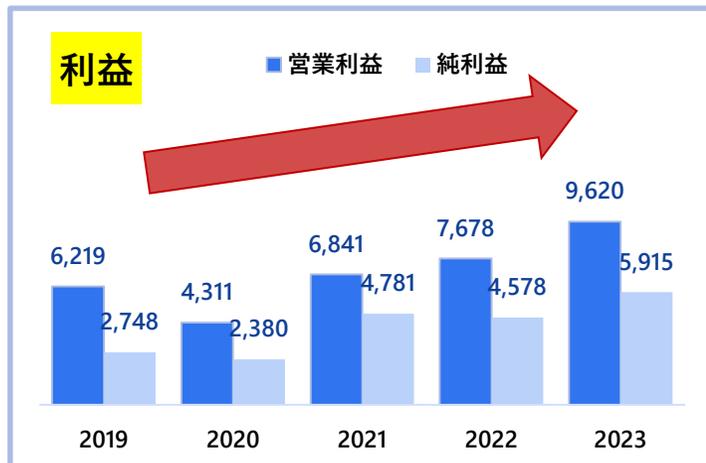
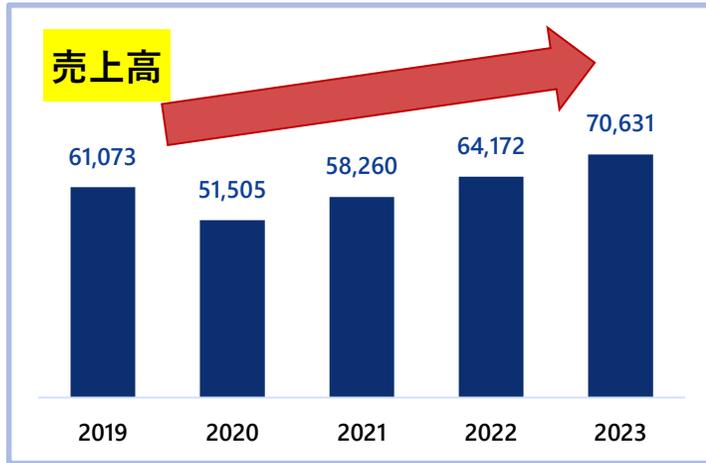
3. 2024年12月期(令和6年12月期) 業績予想

配当



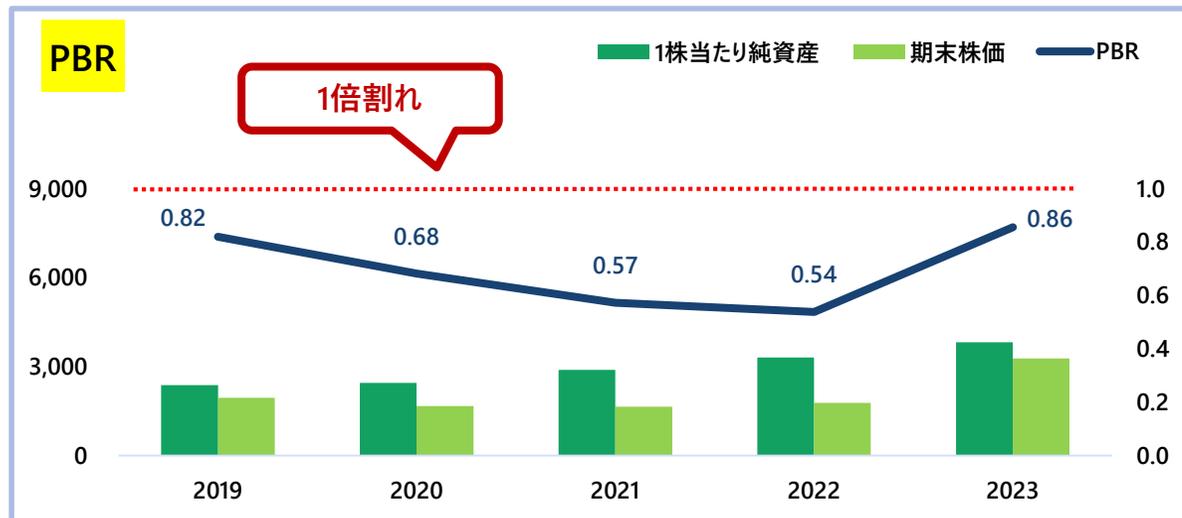
4. 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について 現状分析



過去五年間の資本効率
ROEは想定する資本コストを概ね上回っており
効率的な経営を継続的に行っていると判断

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について 現状分析



PBRは直近5年間継続的に1倍を下回っているが、
2023年は業績の向上や増配・自己株式の取得等の
資本政策により急速に改善

直近5年間のPERは業績と相関しておらず、
業績だけでは向上させることはできない。



【分析結果】

資本効率、経営指標は比較的高い水準ではあるが、
それらが株価に反映されていない状況が継続している

当社グループの成長性に関して、
投資家の皆様からの理解を十分に得られていない状況
＝ 将来期待値が低い

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

改善に向けた方針

現状の評価を踏まえ、当社は株主や投資家の皆様から当社の成長性を適切に評価して頂く事を基本的な方針とします。

- ROE 10.0%以上を維持するための施策
- キャッシュアロケーションの開示等による成長戦略の具体化
- 機動的な資本政策の継続



PBR 1倍を上回る水準とすることを目標

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

改善に向けた具体的な取り組み

<収益性の向上 (1/2) >

EV化に適応した製品開発と拡販

EV用エアコン配管、曲管ゴムホース
ヒートポンプシステム用配管、樹脂とアルミの接合技術



+16億円/年
(2024年販売計画)

EVメーカーへの販売拡大

グループ連携による事業領域の拡大

グローバルでの調達・生産・販売体制の構築



+12億円/年
(2024年販売計画)

欧米のプレミアム2輪メーカー
ハーレーダビッドソン・BMWへの納入開始

SDGsに配慮した省エネ設備の導入

ホース製造の新工法導入
新規加硫工法の導入
太陽光発電など再生可能エネルギーの利用拡大



△0.63億円/年
(2023年実績削減額)

電力使用量の大幅削減

人的資本経営の推進と多様な人材活用

優れたスキルを有した在外国人材の採用強化
異文化コミュニケーションの促進
グループ人材育成方針に基づく更なる人材育成の強化



17%
(2023年度実績)

親会社主要部門における外国人比率の向上

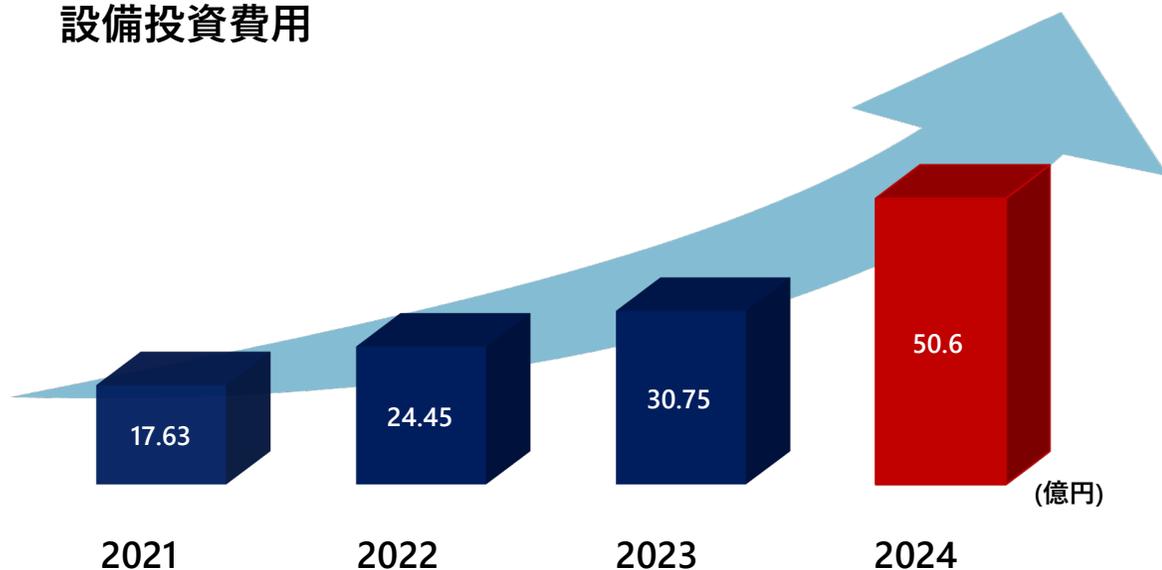
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

改善に向けた具体的な取り組み

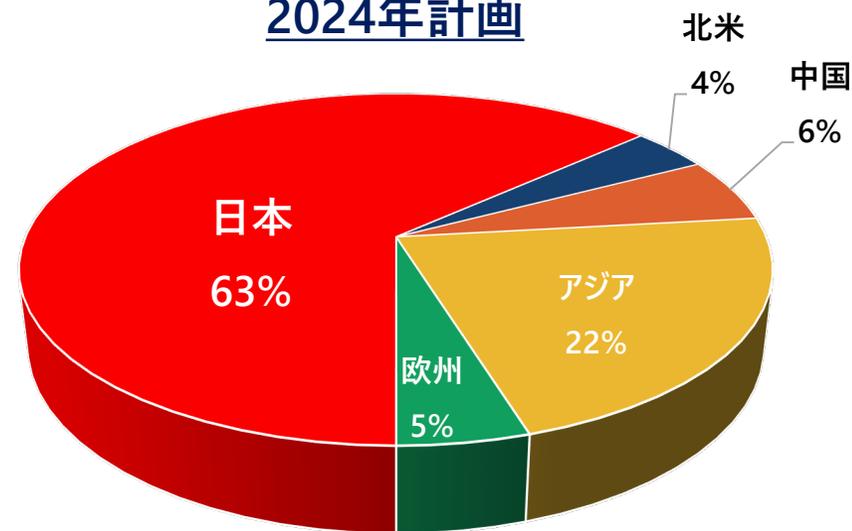
<収益性の向上 (2/2) >

成長戦略としての積極的な設備投資

設備投資費用



2024年計画



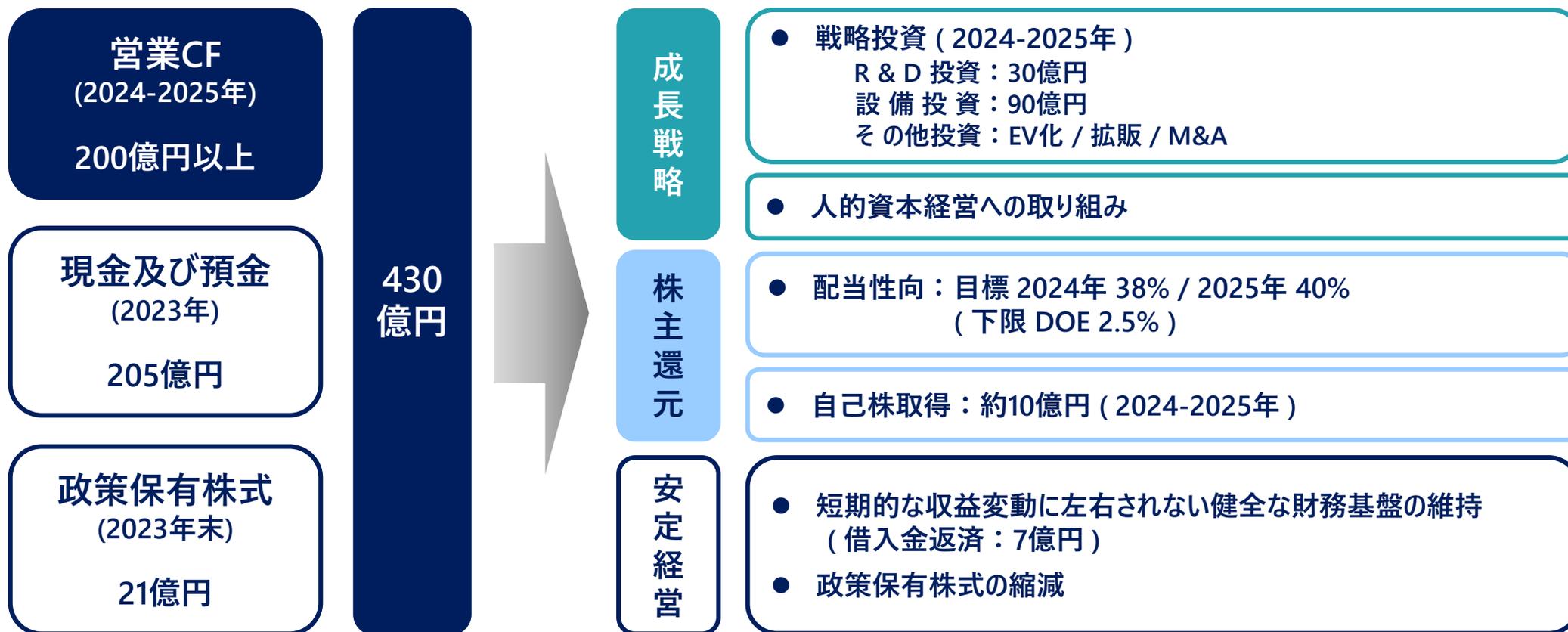
<日本>
NICHIRIN WORKSHOP
建設関連 10.12億円

姫路工場での活用のみならず、世界11拠点の担当者のハブとしてシームレスに技術を導入するためのモノ造り道場としての役割を担い、拠点間で競いながらグループ全体の生産技術力の向上に取り組めます

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

改善に向けた具体的な取り組み

<キャッシュ・アロケーション> 財務戦略・資本政策の強化



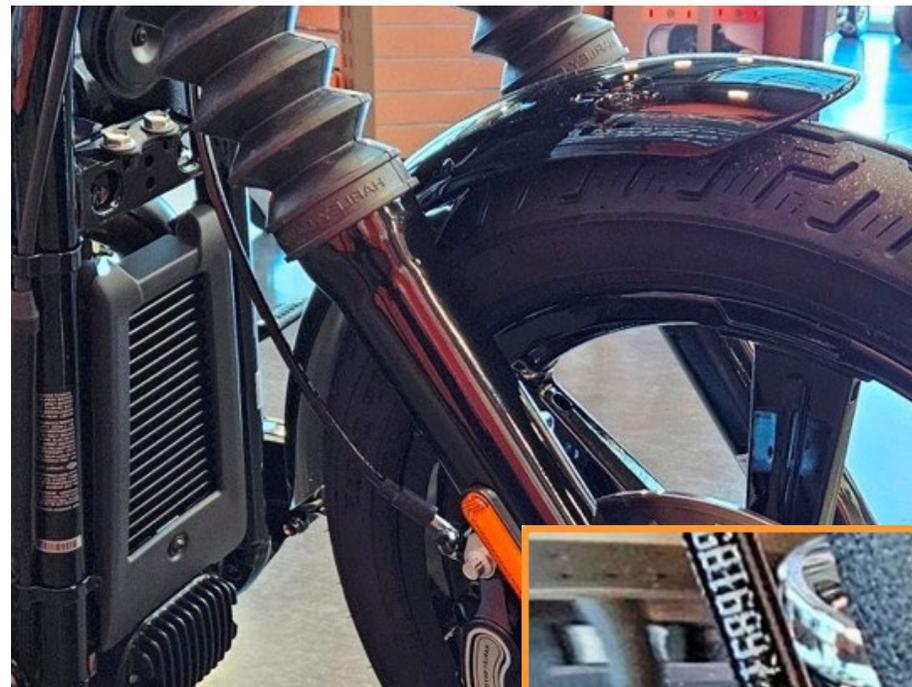
5. トピックス

5. トピック ニチリンインドネシアの取組み



- 現工場の生産スペース拡大のため新倉庫建設
- エアコンホース組立内製化を開始
- 日系メーカーの新規顧客への拡販・増産対応

5. トピック ニチリンタイの取組み



- 2023年12月 新工場取得完了(倉庫として活用)
- 工場取得による生産ライン最適化を推進中
- プレミアム二輪メーカー向けブレーキホースを新規受注し、生産開始

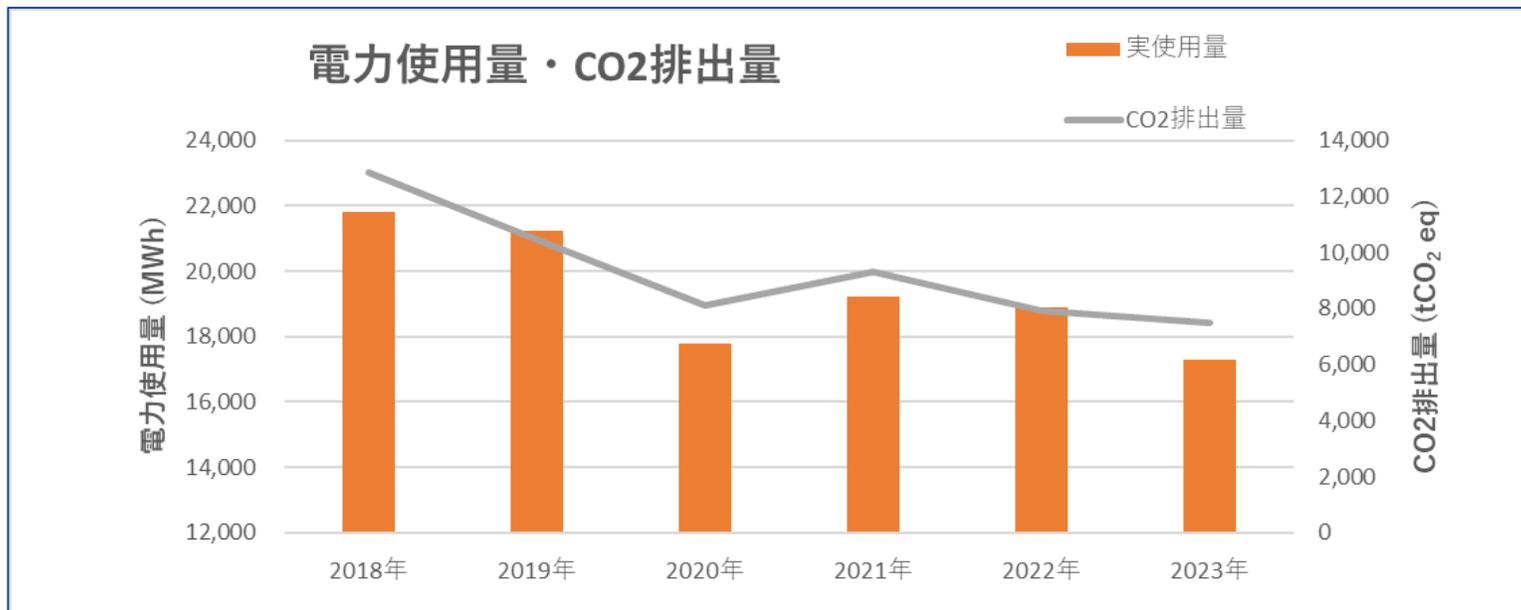
5. トピック ニチリン姫路工場の取組み



- 建屋名称は「NICHIRIN WORKSHOP」に決定
- 協働ロボット開発による生産技術力の向上に取り組む
- 防災センターとして活用
- 環境に配慮した建物（BELS評価書 ZEB Ready取得）

5. トピック CO2削減への取組み

■ 電力使用量・CO2排出量の推移

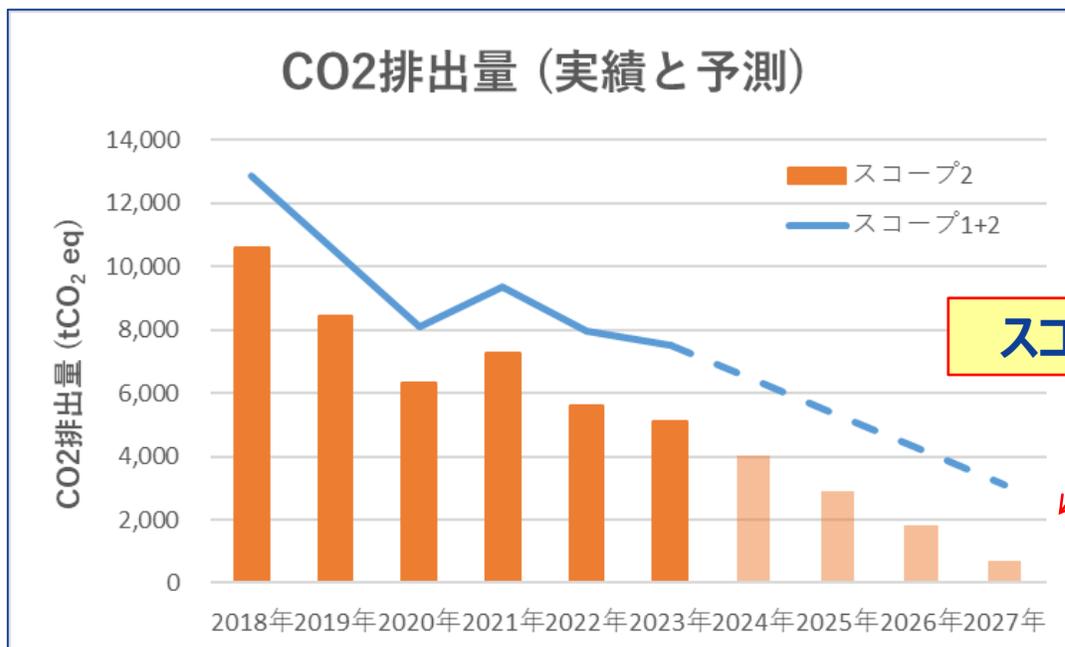


下記施策により、電力使用量・CO2排出量を削減

- 電力使用量の少ない工法の採用（製造）
- 太陽光発電の導入（電力調達）
- 再生可能エネルギー由来電力への切り換え（電力調達）

5. トピック CO2削減への取組み

■ CO2排出量の実績と予測



- 電力使用量の削減・再生可能エネルギー由来電力への切り換えで、スコープ2(電力由来)のCO2排出量はグラフどおり削減できる見込み
- CO2の更なる削減には、スコープ1(化石燃料由来)の削減が必要
→LNG使用量の少ない工法の開発にも取り組んでいる

ご清聴いただきありがとうございました

～おことわり～

本資料に記載されている内容は、資料作成時点の当社独自の判断に基づくものであり、経済状況や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、記載された将来の予想数値・試作の実現を確約したり、保証するものではありません